

復活節 第6主日 ヨハネ 14：15～21

以前、聖マリア学院大学の橋本武夫教授が「子育て」について幼稚園で講演をされました。

その中で、「昔、胎児はお腹の外で起きていることは、何も分かってないと考えられていましたが、今は、5カ月で味覚・聴覚・外で起きている話しのニュアンスまで分かっていることがわかってきた。7カ月でお腹の外で話している人が何を考えているか伝わっている。理解できているし、親がゆったりした気持ちでいるのか、イライラしているのか感じ取っている。生まれてすぐに聞く父の声も、胎内で聞いて声だと認識している」というお話でした。私たちは、お腹の中にいる時から両親、祖父母、兄弟姉妹の愛に包まれていました。そのことだけでも、永遠の愛を受けていたことがわかります。

さて、今日の福音でイエス様は「あなた方をみなしごにはしない」と言われます。来週が主の昇天の祭日なので、地上にいなかった後の弟子たちのことを心配してお言葉です。この「みなしご」という言葉を私たちはどう受け止めるのでしょうか。

「世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない」とあります。この世で生きるとは、仕事をして、家族・友人と交わり、気晴らしをして、少しばかりこだわりと欲を持って生きることだと思えます。それはそれで正しいことなのですが「世」の営みに埋没してしまうと、私たちは「みなしご」になってしまいます。信仰よりも貯蓄や年金を頼りにするようになると「霊的みなしご」になってしまいます。イエス様は、私たちに「みなしご」にしないために霊（聖霊）を送ってくださる、と約束されます。この聖霊の働きは、大きく4つあります。

1つ目は、方向づける力です。ヨハネ福音書16章に「真理の霊は、あなたたちを導き、真理を悟らせる」（16：13、14、26 参照）という言葉にあります。聖霊は、私たちに正しい方向へ導いて、救いや真理に到達させてくれます。磁石が北を指し示すように、聖霊は私たちに真理に方向づけます。反対に、「闇」の中にいる時は方向感覚を失っています。仕事中毒という言葉があります。以前の私もそうでしたが、この状態に陥ると、仕事を一生懸命していても、自分の人生がどこに向かって進んでいるのか分かっていません。ひた走っているのに、どこにたどり着くのか分からなくなっています。聖霊は、このような「闇」の状態、暗中模索の中で走り続ける状態から抜け出して、神様がいらっしゃる場所へと案内してくれます。

2つ目は、自分を一つにまとめる力です。どこに向かって生きているのか分らないと、やっていることに一貫性がなくなっていくます。行動も支離滅裂になっていきます。今の苦しみから抜け出すためにいろいろなものに手を出すけれども、すぐに別のものにも乗り換えてしまいます。手当たり次第に関心のあるものにエネルギーを注ぐけれども、まとまりや首尾一貫性がなくて結局なにも実りません。聖霊は、このようなバラバラの自分を1つにまとめあげていきます。あちらこちらに気が向いていた自分に統一感をもたらしてくれます。

3つ目は、刷新する力です。長く同じ環境にいて慣れてくるとマンネリ化に陥ります。停滞した雰囲気の中にとると、改善するよりも、このままでいい理由を挙げる方に頭が回ります。あるいは複雑に状況をとらえ過ぎてしまいます。聖霊は、一風のさわやかな風を送り込んで、新しいものの見方を提供してくれます。物事を複雑にするよりも、シンプルに見つめ直して問題点と改善方法を指し示してくれます。

4番目は、私たちが最も求めているとも言える、慰める力、勇気づける力です。「慰め主聖霊」(パラクレオトス)です。世の中、競争社会の影響でどんどん世知辛くなっています。取り残されないために、人のために何かをする余裕も失っていきます。せっかくみんなのためにと考えていたのに、無駄なことをしたのか？ 自分のことをしておけばよかったのか？ と疑問を持つこともあります。そんな時に聖霊が私たちに慰めてくれます。

「みなしご」にしないために、イエス様は聖霊を送ってくださいます。でも、聖霊の導きがどこから来るのか、判別するのは簡単ではありません。新型コロナウイルスについても情報が入り乱れて、神のみ心がどこにあるのか識別することは闘いとも言えます。聖霊の働きを願って、それを受け取れる感度を願いましょう。